

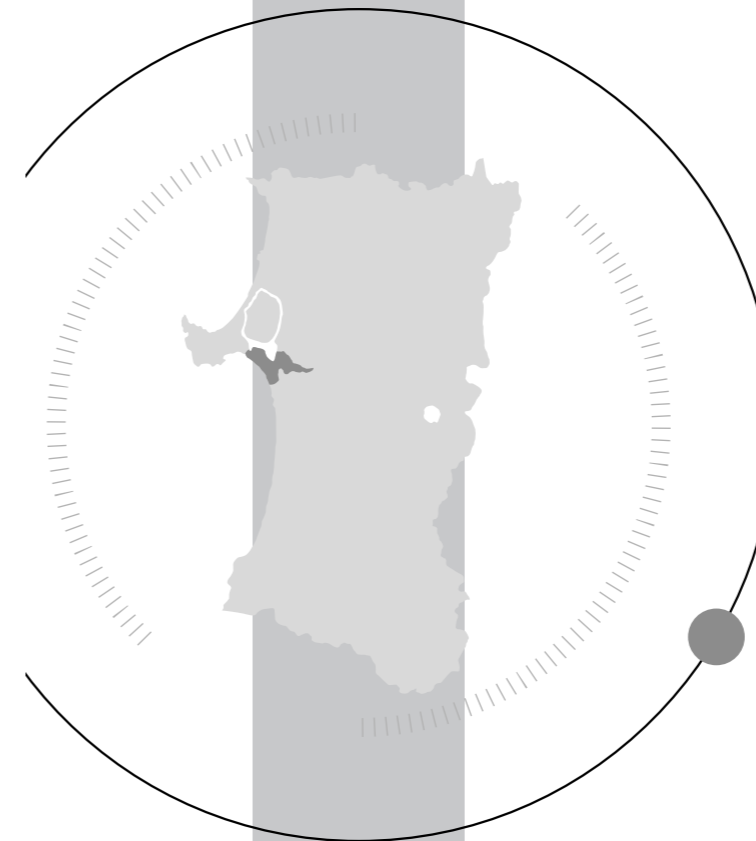
第 3 章

高齢者、要支援・要介護 認定者の状況

第1節 高齢者の状況と推移

第2節 高齢者医療、国保の状況

第3節 要支援・要介護認定者の状況



KATAGAMI

第3章

高齢者、要支援・要介護認定者の状況

第1節 高齢者の状況と推移

1. 高齢者人口の状況

本市の総人口の推移をみると、わずかながら増加傾向にありましたが、平成22年の国勢調査の総人口は34,442人となっており、平成17年の国勢調査に比べ1,372人（△3.8%）減少しています。

一方、65歳以上の高齢者人口は、平成17年の8,034人から平成22年には8,909人（平成22年10月国勢調査）となっています。総人口に占める割合（高齢化率）も平成17年の22.4%から平成22年は25.9%で、3.5%の伸びを示しています。

表3-1 高齢者世帯の状況

区 分		平成21年	平成22年	平成23年
高齢者人口(人)	65歳以上	8,647	8,740	8,786
	75歳以上	4,129	4,303	4,449

各年3月31日現在住民基本台帳

表3-2 人口構造とその推移

区 分	総人口	65歳以上		高齢化率(%)	
			75歳以上	潟上市	県平均
昭和60年	33,482 (100.0)	3,474 (100.0)	1,157 (100.0)	10.4	12.6
平成2年	33,470 (99.9)	4,261 (122.7)	1,584 (136.9)	12.7	15.6
平成7年	34,660 (103.5)	5,602 (161.3)	2,134 (184.4)	16.2	19.6
平成12年	35,711 (106.7)	6,918 (199.1)	2,768 (239.2)	19.4	23.5
平成17年	35,814 (107.0)	8,034 (231.3)	3,628 (313.6)	22.4	26.9
平成22年	34,442 (102.8)	8,909 (256.4)	4,496 (388.6)	25.9	28.9

※①（ ）は、昭和60年を100とした指数

②昭和60年、平成2年、平成7年、平成12年、平成17年、平成22年は国勢調査数値（10月1日現在）

2. 高齢者世帯の状況

本市の総世帯数は、平成22年の国勢調査の結果、11,936世帯と5年前に比べ15世帯(△0.1%)減少していますが、そのうち高齢者の同居する世帯の割合は平成22年に48.0%に達しています。その中でも、ひとり暮らしや高齢者夫婦の両者を合わせた世帯は世帯総数の19.4%を占めていることから、災害や緊急時の安心・安全に備え、より一層地域全体で見守りや支え合いの取り組みが必要となっています。

表3-3 実績データ

区 分		平成21年	平成22年	平成23年
世帯数 (戸)	天王地区	8,421	8,494	8,593
	昭和地区	2,794	2,798	2,790
	飯田川地区	1,636	1,623	1,631
	合 計	12,851	12,915	13,014

各年3月31日現在の住民基本台帳

表3-4 高齢者世帯の推移

(単位：戸、%)

区 分	昭和60年	平成2年	平成7年	平成12年	平成17年	平成22年
総世帯数 (A)	8,888	9,339	10,279	11,277	11,951	11,936
高齢者世帯数 (B)	2,580	3,063	3,798	4,590	5,250	5,723
比 率 (B/A)	29.0	32.8	36.9	40.7	44.0	48.0
単身世帯数 (C)	146	236	378	587	796	997
比 率 (C/A)	1.6	2.5	3.7	5.2	6.7	8.4
夫婦世帯数 (D)	117	207	405	836	1,122	1,314
比 率 (D/A)	1.3	2.2	3.9	7.4	9.4	11.0
その他世帯数 (E)	2,317	2,620	3,015	3,390	3,332	3,412
比 率 (E/A)	26.1	28.1	29.3	30.1	27.9	28.6

(注) 高齢者世帯とは高齢者の同居する世帯、単身世帯とは高齢者のひとり暮らし世帯、高齢夫婦世帯とは高齢者夫婦(夫65歳以上、妻60歳以上の夫婦)のみの世帯

資料：国勢調査(10月1日現在)

第2節 高齢者医療、国保の状況

1. 制度改正による現状と課題



国の医療制度改革の一環として、老人保健医療制度に変わり平成20年度から「後期高齢者医療制度」がスタートしました。

また、40歳以上74歳までの国民健康保険加入者は「特定健診」を、75歳以上の後期高齢者医療制度加入者は「健康診査」を受けることになり、生活習慣病の予防を目的とした新しい健診制度が始まっています。

市では国保部門、健康推進部門、介護部門、国や県、国民健康保険団体連合会及び後期高齢者医療広域連合と連携を図りながら、市民の生活習慣病の早期発見及び早期治療に努め、健康長寿のまちづくりを目指しています。



後期高齢者医療制度は保険料の新たな負担発生、保険料の引き上げの不安、「75歳以上」と年齢で区別した事への不満などにより平成25年度末での廃止が検討されている状況であり、高齢者医療制度の見直しと並行して、国民健康保険制度の広域化も検討されていることから、国の責任において、給付の平等、負担の公平等、全ての国民を対象とする医療保険制度の一本化が求められています。

また、特定健診及び健康診査の受診率は伸び悩み傾向にあり、制度の趣旨を理解してもらうための手法をさらに改善する必要があります。

高齢者、要支援・要介護認定者の状況

2. 高齢者の医療費等の状況

国保加入高齢者（65歳～74歳）の給付状況は、平成22年度では被保険者数が3,121人で給付総額は約14億7千万円、1人当たりの医療費は469,728円、1件当たりの医療費は18,996円となっています。

被保険者数は年々減少傾向となっていますが、平成21年度の給付費は前年度比で約2億8百万円の増、平成22年度は前年度比で約6千万円の減となっています。

表3-5 療養の給付内訳 (単位：千円)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度
療養給付費	入院	410,530	523,156	469,583
	入院外	415,544	461,267	471,839
	歯科	86,927	89,677	86,284
	調剤	369,365	410,123	399,884
	入院時食事療養費	22,921	27,409	25,458
	訪問看護療養費	0	203	73
	小計	1,305,287	1,511,835	1,453,121
	療養費	13,608	14,858	12,901
	合計	1,318,895	1,526,693	1,466,022

資料：潟上市市民課

表3-6 被保険者数 (単位：人、件、円)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
被保険者数	3,182	3,133	3,121
1人当たりの医療費	414,486	487,294	469,728
医療給付件数	74,578	80,981	77,177
1件当たりの医療費	17,685	18,852	18,996

資料：潟上市市民課

後期高齢者（75歳以上）の給付状況は、平成22年度では被保険者数が4,413人で給付総額は約40億6千万円で、1人当たりの医療費は920,658円、1件当たりの医療費は28,976円となっています。

被保険者数、給付費ともに年々増え続けています。

表3-7 療養の給付内訳 (単位：千円)

区分		平成20年度	平成21年度	平成22年度
現物給付	入院	1,517,755	1,826,724	1,981,238
	入院外	817,342	910,664	934,397
	歯科	71,330	86,204	92,181
	調剤	763,362	881,758	910,796
	入院時食事療養費	94,100	114,348	117,711
	訪問看護療養費	0	2,198	3,187
	小計	3,263,889	3,821,896	4,039,510
現金給付	柔道整復師の施術	16,954	21,885	19,198
	補装具	2,240	2,675	2,604
	マッサージ等	1,562	1,637	1,552
	小計	20,756	26,197	23,354
合計	3,284,645	3,848,093	4,062,864	

*平成20年度は11ヶ月分
資料：潟上市市民課

表3-8 被保険者数等 (単位：人、件、円)

区分	平成20年度	平成21年度	平成22年度
被保険者数	4,124	4,273	4,413
1人当たりの医療費	796,471	900,560	920,658
医療給付件数	121,999	138,586	140,215
1件当たりの医療費	26,924	27,767	28,976

資料：潟上市市民課

3. 高齢者の疾病構造

国保加入高齢者（65歳～74歳）の受診件数で見ると、男女とも循環器系疾患が1位を占め、消化器系疾患が男性では2位、女性では3位と上位となっています。また、男性では腎尿路生殖器、女性では精神障害が10位以内に入っています。

表3-9 65歳～74歳の受診件数別疾病構造（男）

順位	疾病分類	件数	構成比 (%)
1	循環器系	397	24.45
2	消化器系	309	19.03
3	筋骨格系	180	11.08
4	内分泌	174	10.71
5	眼疾患	130	8.00
6	新生物	79	4.86
7	腎尿路生殖器	60	3.69
8	呼吸器系	58	3.57
9	神経系	41	2.52
10	皮膚疾患	41	2.52
	その他	155	9.54
	合計	1,624	100.00

資料：潟上市国民健康保険疾病統計（平成23年5月診療分）

表3-10 65歳～74歳の受診件数別疾病構造（女）

順位	疾病分類	件数	構成比 (%)
1	循環器系	455	20.83
2	筋骨格系	343	15.71
3	消化器系	333	15.25
4	内分泌	249	11.40
5	眼疾患	232	10.62
6	新生物	98	4.49
7	精神障害	89	4.08
8	呼吸器系	80	3.66
9	神経系	67	3.07
10	症状、徴候	57	2.61
	その他	181	8.29
	合計	2,184	100.00

*後期高齢者医療については、実施主体が後期高齢者医療広域連合となったため、75歳以上の疾病構造については把握できない。

資料：潟上市国民健康保険疾病統計（平成23年5月診療分）

第3節 要支援・要介護認定者の状況

要支援・要介護認定者は平成21年度から3年間で30人増加し、平成23年度には1,715人となっております。特に要介護1の増加が著しく、58人の増となっております。

また、平成23年度の第1号被保険者（65歳以上）に占める要支援・要介護認定者の割合は18.8%で、前期高齢者（65～74歳）では4.2%が、後期高齢者（75歳以上）では33.3%が要支援・要介護認定者となっております。

表3-11 認定状況

（単位：人）

区分	平成21年度	平成22年度	平成23年度
要支援1	139	135	124
要支援・要介護に占める割合	8.2%	8.0%	7.2%
要支援2	249	216	214
要支援・要介護に占める割合	14.8%	12.8%	12.5%
要介護1	241	291	299
要支援・要介護に占める割合	14.3%	17.3%	17.4%
要介護2	335	286	305
要支援・要介護に占める割合	19.9%	17.0%	17.8%
要介護3	245	252	263
要支援・要介護に占める割合	14.5%	15.0%	15.3%
要介護4	271	265	269
要支援・要介護に占める割合	16.1%	15.7%	15.7%
要介護5	205	238	241
要支援・要介護に占める割合	12.2%	14.1%	14.1%
合計	1,685	1,683	1,715

※介護保険事業状況報告 各年度8月31日現在

第3章

高齢者、要支援・要介護
認定者の状況

図3-1 要支援・要介護認定者数の推移

